

# 令和7年度 阪南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	233	59	59	4.6	6.0	学校	533
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	228	72.4	59.9	63.4	55.8	67.9	4.3	4.5	9.1	7.2	3.1
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4					
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	264	67.1	45.9	62.4	58.5	59.2	6.6	5.3	8.2	2.9	5.4
	大阪市	—										
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	262	69.5		66.6		75.0	5.2		4.8		2.2
	大阪市	—										
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	226	147.1	137.0	185.0	115.8
10月23日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	27.37	25.92	45.29	54.85	84.06		7.86	194.94	19.35	42.78
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	21.93	24.13	49.10	49.99	55.64		8.97	162.01	12.25	50.10
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.98	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 阪南中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査 全教科とも、全国平均を上回っている。

<国語>

全国平均正答率より4.7pt(R6年度は4.9pt、以下同じ)上回った。また、領域別では「話すこと・聞くこと」領域では1.4pt(2.8pt)、「書くこと」領域では4.5pt(9.5pt)、「読むこと」領域では4.9pt(6.8pt)、「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域では11.8pt(4.9pt)上回った。以上の点から、「思考・判断・表現」においては平均以上の学力がついていると考えられる。

<数学>

全国平均より10.7pt(7.5pt)上回った。また、領域別においても4つの全分野において全国平均正答率を上回った。特に「数と式」領域では14pt(9.1pt)、「図形」領域では10.0pt(10.0pt)と大きく平均を上回り、基礎学力の定着に一定の効果が見られる。また、全問題において無回答率が全国平均より4.6pt低く、意欲をもって取り組む姿勢がみられる。また正答問題数が全国平均と比べて非常に高く、全体的な数学への理解の習熟が進んでいる。しかしながら一定数正答数が低い生徒がいるので、引き続き基礎の習熟にも注力したい。

○中学生チャレンジテスト(3年生) 全教科とも、大阪府平均を上回っている。

<国語>

大阪府平均と比較して、8.2pt(4.8pt)平均が高い結果となった。全領域において大阪府平均を上回る結果となった。一方、「知識・技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域は0.8pt(2.6pt)しか上回っておらず、今後の知識技能の基礎学力の定着に注力したい。

<社会>

大阪府平均と比較し、8.7pt(4.4pt)高い結果となった。全領域において大阪府平均を上回っている。しかし、問題形式の記述は、他の領域と比較して0.5pt(0.4pt)しか上回っていないので、今後の課題とする。

<数学>

大阪府平均と比較し、9.5pt(8.2pt)平均が高い結果となった。全領域において大阪府平均を上回り、基礎学力の定着ができていけるといえる。しかしながら標準偏差が高く、ばらつきのある結果となったので、まだまだ基礎学力が身につけていない生徒がいるため、引き続き指導を続けたい。

<理科B>

大阪府平均と比較して、9.8pt(6.9pt)平均が高い結果となった。全領域において大阪府平均を上回った。しかし、「エネルギー」の領域の得点率は44.8pt(43.4pt)であり、大阪府と比較すると、平均点が4.3pt(6.9pt)のみ上回っているため、他の領域と比較して今後の「エネルギー」の領域に対して注力したい。

<英語>

大阪府の平均と比較して14.7pt(8.9pt)非常に高い結果であった。全領域においても大阪府平均を上回ることができた。無解答率も4.3pt(2.8pt)下回っており、高得点の割合の高さと低得点の割合の低さとも良い結果につながっている。引き続き指導の継続を図り、さらに学習を進めたい。

○中学生チャレンジテスト(1,2年生) 全教科とも、大阪府平均を上回っている。大きく上回った教科に関して、知識・技能、思考・判断・表現の項目において、比較的高い結果である。また、英語においては、読むこと、書くことの領域で大阪府の平均を大きく上回っている。

<国語>

大阪府平均と比較し、1年生では6.4pt、2年生では2.6pt、大阪府平均を上回った。

<社会>

大阪府平均と比較し、2年生では1.6pt、大阪府平均を上回った。

<数学>

大阪府平均と比較し、1年生では9.9pt、2年生では7.4pt、大阪府平均を上回った。

<理科>

大阪府平均と比較し、2年生では11.8pt、大阪府平均を大きく上回った。

<英語>

大阪府平均と比較し、1年生では9.8pt、2年生では7.4pt、大阪府平均を上回った。

○大阪市英語力調査(GTEC)

大阪市の平均値と比較すると、4技能とも大きくスコアを上回った。特に、読むこと【リーディング】が+32.7点、書くこと【ライティング】が+38.6点と大きく上回った。4技能で比較すると、聞くこと【リスニング】が+32.7点、話すこと【スピーキング】が+17.4であり、少し差が生じている。授業で英語のスピーチやプレゼンテーション等を学級毎に発表し、お互いの英語を聞き合う機会を設定しているが、今後の課題として、聞くことと話すことの時間を一層増やしていくこと等、検討し、4技能の向上を図っていく必要がある。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

本校の結果として、反復横とびと20mシャトルラン、50m走において男女とも大阪市と全国の平均を上回っている。しかし、握力に関して、男子は大きく、女子も下回っている。体力合計点の結果に関して、大阪市(全国)の平均値と比較すると、男子は+1.09(+0.58)点、女子は+1.96(+2.52)点高い結果となった。特に体育授業の最初に補強運動や柔軟運動を取り入れて基礎体力を向上させている。次年度も継続させていく。また、質問項目の「運動やスポーツをすることは好きですか」という回答は、大阪市(全国)の平均値と比較すると、男子は-2.9(-4.2)%低く、女子は+1.3(+0.8)%高い結果となった。保健体育の授業では、スモールステップを意識した課題設定をおこない、一単元につき一度は達成感を得られる場を設け、楽しいと思える瞬間をつくらせている。今後も授業で運動と健康の関係を伝えながら運動に親しむ態度を育てる。さらに、一週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合は、大阪市(全国)の平均値と比較すると、男子は-4.6(-1.8)%低く、女子は+1.5(-4.7)%という結果となった。総じて、全国平均と比較して、一週間の総運動時間は多い傾向である。